

八戸市尻内町のフラットパークで開かれたプレーパークの様子



# 子どもが自由に遊ぶ「プレーパーク」

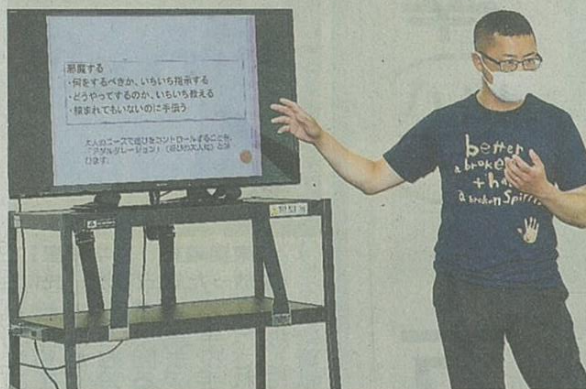
## 「理念明確にし活動を」

八戸

子どもたちが自分の責任で自由に遊べる「プレーパーク」の理念や運営に理解を深めようと、八戸市の任意団体「遊Viva!熊ノ沢プレーパーク推進委員会」(赤澤勝崇会長)はこのほど、同市尻内町のフラットパークで開催しているイベント「くまのさわプレーパーク」の視察会と意見交換会を開いた。

くまのさわプレーパークは、2020年から同会と八戸学院大学短期大学部幼児保育学科の差波直樹准教授とそのゼミ生が共同で開催している。今年6月から月1回開催している。

### 市内団体 視察と意見交換会



プレーパークの運営や子どもとの接し方について講演する関戸代表

視察会と意見交換会には、赤澤会長や差波准教授のほか、全国でプレーパークづくりを支援するNPO法人「日本冒険遊び場づくり協会」の関戸博樹代表や県内関係者は、市内から訪れた約80人の子どもたちと遊びながら、くまのさわプレーパークを運営する関係者約10人が参加した。

「プレーパークを視察。ユートリで行われた意見交換会で関戸代表は、プレーパークで子どもと接する時の注意点について「やりたいことをよく観察し、不必要に指示したり手伝わないこと」と説明。運営の人材確保と育成について質問を受けると「プレーパークの形態を明確にし、運営に関わる人に何を求めるのかはつきりさせる必要がある」と答えた。

関戸代表は取材に「くまのさわプレーパークは学生の存在が大きい。八戸の子ども大切な遊び場になる可能性が高い」と評価。赤澤会長は「プレーパークの理念を多くの人に伝え、寛容性ある地域づくりにつながりたい」、差波准教授は「子どもが八戸で育つてよかったと思えるような地域を目指したい」と語った。(相澤賢斉)